

団体名	LGBT ハウジングファーストを考える会・東京
助成額	486,743 円
申請事業名	LGBT 生活困窮者へのシェルター支援運営と成果報告イベントの開催
HP	https://lgbthf.tokyo/

活動・事業報告

【1】 私達の思い

・私達は、ハウジングファーストの考え方に基づき、貧困によって住まいを失った LGBT 当事者へ、安心できる個室シェルターの提供と、その後の自立生活や社会復帰に向けたサポートを行ってきました。

【2】 全体報告活動の実績

・2019 年、個室シェルターである LGBT 支援ハウス（1 室）の入居開始以降、これまでに 4 名の方が入居されました。4 人の入居者は、支援ハウスを利用して次のステップにつながっています。

【3】 助成を対象とした活動の実績

・今回の助成金は、専門性のあるスタッフの確保など入居者支援（入居に向けたアセスメント、医療や福祉機関との連携、日常生活のサポートなど）、事業報告書の作成（カラー1500部）と支援者等への郵送、広報にかかる費用、LGBT 支援ハウスの運営費の一部として活用させていただきました。

① 入居者支援

まず、入居者支援については、

(1)利用者支援業務（面談、同行、相談、行政・医

療機関への同行等）：のべ 37 回

(2) 広報・連携業務（マスコミ等取材対応、他団体連携等）：のべ 20 回

(3) ファンドレイズ業務（クラウドファンド・助成申請等）：のべ 19 回

とのべ計 76 回の支援活動に謝金を支出することができました。

② 報告書の作成・広報

コロナウイルスの感染拡大防止のため、事業報告会を中止することになったため、報告書のデザイン等を充実させることとしました。そのために、編集費とデザイン費を当初予算より追加補充しています。結果として、A5 版、カラー12 ページの報告書を 1,500 部発行し、60 箇所以上に配布を行いました。また、PDF 版をクラウドファンドへの協力者 191 名に送信することができました。

[https://lgbthf.tokyo/wp-](https://lgbthf.tokyo/wp-content/uploads/2020/03/lgbthf12p.pdf)

[content/uploads/2020/03/lgbthf12p.pdf](https://lgbthf.tokyo/wp-content/uploads/2020/03/lgbthf12p.pdf)

③ 支援ハウスの運営

そして、支援ハウスの運営の一部については、コロナウイルス対策として、消毒剤のほか、トイレットペーパーなどの日用品を購入し、備蓄することができました。

助成金を受けての成果とその自己評価

(1) 入居者の声

まず、入居者の声としては、

・体調不良でも働かされるブラック企業の社宅から転居をするにあたって、HIV 陽性やゲイであることを知った家族とも疎遠となっていたため、保証人を頼める人もおらず、精神的・金銭的に自力で転居先を探す無理な状況でした。行政にも相談したが、その時は受け付けてもらえなかった。支援ハウスでは、一通りの生活に困らない設備があり、また、入居後も毎回面談時にフォローアップしていただけるので、本当に助かりました。正直、このような支援がなければ、不仲な親元でストレスを溜めながら、もっと精神的にどうしようもなくなっていたでしょう。もしくは、いくあてもなく、路上で生活することになっていたかもしれません。本当に支援ハウスのおかげで助かりました。という声を寄せて頂いた他、退所された方から

も、いろいろな形で私達の活動への支援していただいています。

(2) 支援者からの声

スタッフとして携わっている人の声として、
・報告書を作成することで、私達を支援していただいている方に私達の活動をわかりやすく伝えることができました。

このプロジェクトを支援していただいている方から頂いた声としては、

・「LGBT 支援ハウス」の立ち上げを耳にした時、ほっとしました。自分がかつて生活困難になった時、もし LGBT 支援ハウスに駆け込めたとしたら、大学も中退せず、もっと安心して大人になれたかもしれない。
・現場のリアルな声を知れると同時に、LGBT 支援ハウスがあって本当に良かったと安堵

を覚えます。

- 行政や既存の団体が提供できなかったセーフティーネットを、この団体は提供しています。自立を支援する事で、好循環が生まれようとしています。
- LGBT 支援ハウスのこの一年の取り組みによって、孤立している LGBT の生活困窮者の存在を一定程度、「見える化」することができました。つまり、今まで知られず、ひっそり苦しんで行き場をなくしたセクシュアル・マイノリティの人たちが、安心して助けを求めていいのだ、と思える機会が増えているのです。ニーズはますます増えるでしょう。
- LGBT 支援ハウスがあって本当に良かったと安堵を覚えます。などの意見をいただきました。

(3) 支援しての気付き

そして、支援して分かったこととしては、

- 困難な状況にいる人ほど、「助けて」と自分から S O S を出すことが難しい傾向かにあり、それを見かねた周囲の人たちからの相談が多くなると感じています。
- 行政の運営の仕方でも、例えば、ホームレスの場合、電話を持っていないため、行政は、電話でしか対応してもらえないといった、不具合を発見することができ、私達が、その仲立ちをすることでギャップを埋めることができました。

(4) 自己評価

以上から、

- 「LGBT を対象にした窓口があることで、社会資源の選択肢がひろがった」
- 「潜在的なニーズを顕在化・見える化させることができた」
- 「負のスパイラルを止めるために今後必要なことを整理できた」と自己評価しています。

今後の活動の展望

(1) 複数室での提供体制

• 入居希望に関しては、現在までで 21 件の相談があり、改めてこの支援のニーズや必要性が顕在化させることができました。現状では、一室のため満室状態が続いており、入居希望のニーズに答えられていない現状があるため、複数室での提供体制を整えていきたいと考えています。

(2) 人的資源の充実

• 今回の助成により、専門職に対して、謝金を支払うことができるようになり、人的な資源が確保しやすくなりました。引き続き内部研修の充実や支援担当者の常勤化など支援の質の向上に取り組んで参りたいと思います。

(3) 重複課題への対応

• さらに、活動開始以降、精神疾患、HIV、海外からの難民など、重複した課題を抱える当事者からの相談や入居問い合わせが増えており、それぞれの専門的に取り組んでいる団体との連携を深めるとともにそれらの課題への対応力の強化にも努めてまいります。

(4) 社会への波及

• 小さな一歩ですが、この取組が一つのモデルとなり、他への波及をし、多くの取り組みが起これ福祉施設及び施策の運営が LGBT にフレンドリーであることが広がっていくことを期待しています。



ビデオレターはこちらから

<https://youtu.be/LSVq62mYGKY>

